

平成 30 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（出題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

＜検索用キーワード＞

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析 コミュニケーション能力

研 究 協 議 会 委 員

愛知県立旭丘高等学校教諭	梅 村 守
愛知県立松蔭高等学校教諭	石 田 秀 憲
愛知県立鳴海高等学校教諭	山 内 武 司
愛知県立一宮北高等学校教諭	得 永 優 子
愛知県立豊田西高等学校教諭	石 川 和 代
愛知県立豊田東高等学校教諭	稲 垣 宏 行
愛知県立幸田高等学校教諭	溝 上 真 俊
愛知県立安城南高等学校教諭	下 條 貴 司
愛知県総合教育センター研究指導主事	広 瀬 八 重 子（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理	56
3 調査結果の概要	56
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	59

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和 29 年度以来継続して実施し、平成 30 年度で 65 回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
 - (2) 高等学校第 1 学年における指導上の参考資料

2 調査の実施及び処理

調査は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題及び報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの教育研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施時期

平成 30 年 3 月下旬から 4 月上旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	学科数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全日制	普通科	104	28,108	104	27,744	103	27,576	99	25,116
	総合学科	6	1,478	6	1,477	6	1,475	7	1,714
	商業科系	7	783	7	786	7	789	7	785
	家庭科系	12	695	12	715	14	713	12	705
	英語科系	4	167	4	158	4	161	4	168
	他の学科	13	791	13	710	11	696	9	493
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		146	32,022	146	31,590	145	31,410	138	28,981

（注 1）表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

（注 2）「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

（注 3）「英語科系」は、国際教養科及び英語留学コースである。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を、学習内容ごとに調査するものである。問題作成に当たっては、次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 統計上の調査事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の 10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

〔表 1〕は、調査対象 28,981 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

[表 1]

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	3,548	4,964	4,371	3,919	3,431	3,115	2,716	1,997	856	64	28,981	62.6
%	12.3	17.1	15.1	13.5	11.8	10.7	9.4	6.9	3.0	0.2	標準偏差	22.8
普通科	3,462	4,786	4,082	3,452	2,820	2,430	1,954	1,462	617	51	25,116	65.0
%	13.8	19.0	16.3	13.7	11.2	9.7	7.8	5.8	2.5	0.2	標準偏差	22.3
総合学科	9	58	130	233	299	301	339	246	95	4	1,714	46.3
%	0.5	3.4	7.6	13.6	17.4	17.6	19.8	14.4	5.5	0.2	標準偏差	18.3
商業科系	1	38	57	104	155	170	164	70	24	2	785	48.4
%	0.1	4.8	7.3	13.2	19.7	21.7	20.9	8.9	3.1	0.3	標準偏差	17.1
家庭科系	6	14	43	75	101	145	151	106	60	4	705	43.2
%	0.9	2.0	6.1	10.6	14.3	20.6	21.4	15.0	8.5	0.6	標準偏差	18.2
英語科系	64	43	24	18	9	5	3	1	1	0	168	80.3
%	38.0	25.6	14.3	10.7	5.4	3.0	1.8	0.6	0.6	0.0	標準偏差	16.4
他の学科	6	25	35	37	47	64	105	112	59	3	493	41.2
%	1.2	5.1	7.1	7.5	9.5	13.0	21.3	22.7	12.0	0.6	標準偏差	20.8

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成30年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 発音・文強勢（【1】発音・文強勢問題 正答率 50.3%）

会話文において、cat, imagine, same, fun の下線部の母音の正確な発音が身に付いていない。また、発話や応答の内容において、強勢を置いて伝える情報を適切に判断できない傾向が見られた。

(2) 語彙力（【2】語彙問題 正答率 62.7%）

選択式問題（5問）と記述式問題（breakfast, leave）の正答率は60%以上で、基本的な語彙は定着していた。一方で、正答率が40%未満であった記述式問題（dictionary, ready）では、つづりの誤りよりも別の語を解答する誤答が多く、文脈の中で正答の語を用いることが理解できていなかった。

(3) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 76.7% 【4】文法・表現問題 正答率 74.6%）

ア 【3】文法・語法問題は、全大問の中で最も正答率が高く、特に make + （代）名詞 + 形容詞の用法や、接続詞 because の用法はよく定着していた。

イ 【4】文法・表現問題も正答率が高く、会話の内容に応じて文法の知識を活用することはおおむねよくできていた。特に、Here you are の表現や、受動態の用法はよく定着していた。

(4) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 69.1%）

会話の展開を理解し、適切な表現を用いることはおおむねよくできていた。一方で、正答率が40%未満であった設問(4)では、やり取りの内容から、会話の場面を正確に把握できない傾向が見られた。

(5) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 48.6%）

全大問の中で最も正答率が低く、特に所要時間を尋ねる How long does it take ...? という疑問文を用いて表現することができていなかった。

(6) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 59.6%）

登場人物の行動と気持ちを関連付けながら、物語の展開を正確に捉えられない傾向が見られた。

(7) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 62.9%）

まとまった内容の会話を聞き、状況を正確に理解することができない傾向が見られた。

5 統計資料

(1) 設問別正答率(%) (過去との比較)

【表2】は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。本年度より、設問【1】について、短い英文から、会話文の中で発音や文強勢を問う形式へ変更した。また、設問【8】について、まとまった会話に関する設問（5問）から、短い三つの会話文に関する設問（各1問）と、まとまった会話に関する設問（2問）という形式へ変更した。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、本年度は、設問【3】【4】の正答率が高く、本年度から出題形式を変更した、設問【1】【8】の正答率が、昨年度と比較してかなり低いことが分かる。

設問別正答率(%)の推移(過去との比較)

【表2】

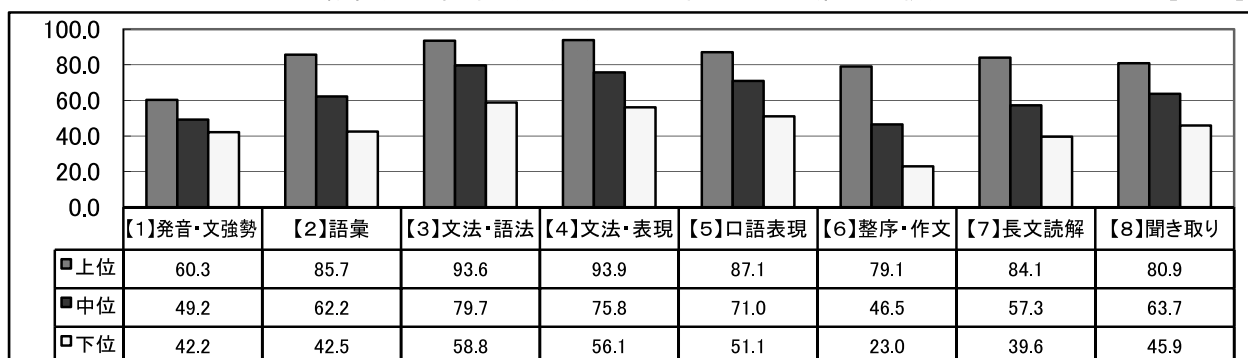
年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
抽出人数	3,158	3,284	3,227	3,204	3,265	3,252	3,207	3,177	2,953
全設問	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2	65.5	59.9	61.9	62.6
【1】発音・文強勢	48.5	65.4	45.2	66.6	46.9	59.8	64.3	64.5	50.3
【2】語彙	54.0	46.4	50.6	41.2	47.9	49.6	35.5	64.5	62.7
【3】文法・語法	67.2	68.8	79.0	67.0	55.7	63.9	56.0	74.3	76.7
【4】文法・表現	66.8	47.9	53.3	40.3	42.9	71.4	59.8	70.1	74.6
【5】口語表現	76.7	70.7	74.4	73.5	45.8	83.9	65.7	55.2	69.1
【6】整序・作文	56.3	65.7	55.6	55.2	55.2	60.9	66.3	40.0	48.6
【7】長文読解	62.3	61.8	63.7	52.7	51.2	60.5	63.3	61.6	59.6
【8】聞き取り	50.6	60.0	70.7	75.1	59.1	75.5	60.4	72.5	62.9

(2) 平成30年度設問別正答率(上位・中位・下位層の比較)

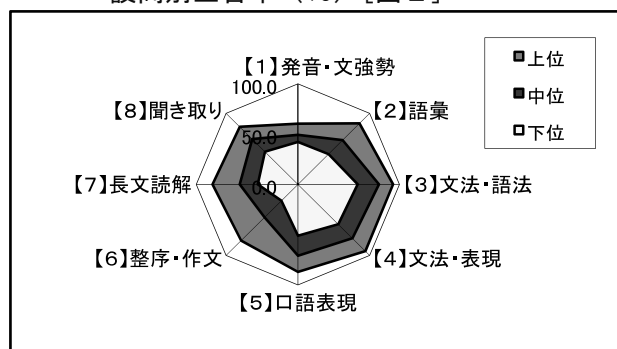
【図1】は、全調査校138校(学科・コース)から抽出した2,953名中の学校平均点上位29校(偏差値55以上)に所属する937名(上位層)、学校平均点中位47校(偏差値45以上55未満)に所属する978名(中位層)及び学校平均点下位62校(偏差値45未満)に所属する1,038名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率(%) (上位・中位・下位層の比較)

【図1】



設問別正答率(%) 【図2】



【図2】は、【図1】をレーダーチャートにしたものである。設問別に各層の正答率を比較すると、【6】整序・作文で各層の正答率の差が大きく、特に中・下位層で、表現力に課題があることが分かる。一方、【3】文法・語法、【4】文法・表現で、各層の正答率が高く、文法の知識を活用する力は比較的身に付いていると言える。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音・文強勢問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別及び会話文における強勢の知識を測る。

【1】 次の(1)～(3)の下線部と発音が同じものを英文中の下線部ア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、波線部(4)、(5)において、下線部 a～d のうち最も強く読まれるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) put (2) cat (3) three

Sakura : What kind of food would you like?

Bob : (4) I want to try Japanese food.

Sakura : Do you like shabu-shabu, then?

Bob : What is that? Can I see the menu, please? Which is shabu-shabu?

Sakura : This is shabu-shabu. We cook meat in a pot on the table and eat it together.

Bob : (5) You mean we all take the food from one pot? I can't imagine that we use the same pot.

Sakura : We usually eat it that way. I think it's fun. Why don't you try it?

Bob : OK, I'll try it.

- (4) I want to try Japanese food.

- (5) You mean we all take the food from one pot?

配点 10点 (各2点)

正解 (1) エ (2) キ (3) ケ (4) c (5) d

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 2,953	普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50
(1) <u>cook</u>	50.3	59.0	61.2	44.8	46.3	46.7	32.0
(2) <u>imagine</u>		39.1	40.1	31.4	36.3	32.0	30.0
(3) <u>think</u>		73.6	74.8	65.1	66.3	62.7	64.0
(4) <u>Japanese</u>		50.9	51.3	50.6	51.3	37.3	46.0
(5) <u>one</u>		28.7	29.6	20.3	30.0	14.7	22.0

本年度は、小問(1)、(2)、(3)を発音に関する問題、(4)、(5)を文における強勢に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、「調査校全体の正答率」という)は50.3%であった。

平均点順位が中位にある全日制課程普通科・総合学科の生徒100名の答案(以下、「分析答案」という)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<過年度類題正答率(%)>

小問	30年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) <u>put</u> [u]	59.0	37.9 (27年度) <u>book</u> , 61.7 (26年度) <u>wood</u>
(3) <u>three</u> [θ]	73.6	88.7 (29年度) <u>thousand</u> , 54.5 (27年度) <u>thank</u> , 58.0 (26年度) <u>cloth</u>
(4) 疑問文の内容	50.9	79.1 (29年度), 67.3 (28年度), 72.8 (27年度)
(5) 対比される情報	28.7	60.4 (29年度), 61.0 (28年度), 57.4 (27年度)

<分析答案による誤答数>

小問（発音）	誤答数	ア [u:]	イ [ɪ]	ウ [ju:]	エ [u]	オ [a]	カ [ɔ]	キ [æ]	ク [ei]	ケ [θ]	コ [ʌ]	無答
(1) <u>pu</u> t [u]	46	19	0	15	正答	5	1	0	0	0	6	0
(2) <u>ca</u> t [æ]	59	0	0	2	2	4	1	正答	15	1	34	0
(3) <u>th</u> ree [θ]	24	1	7	4	1	0	10	0	0	正答	1	0
小問（文における強勢）	誤答数	a	b	c	d	無答						
(4) 疑問文の内容	55	7	37	正答	11	0						
(5) 対比される情報	72	21	30	21	正答	0						

<考察>

小問(1)は、[u] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は59.0%であった。誤答46例のうち **ア** food と **ウ** menu が34例あり、[u] と [u:], [ju:] の発音の違いが十分に理解されていないと考えられる。

小問(2)は、[æ] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は39.1%と低かった。誤答59例のうち34例が **コ** fun であり、[æ] や [ʌ] といった母音の発音が正確に区別されていないと考えられる。

小問(3)は、[θ] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は73.6%と本問中最も高かった。見出し語 three と、**ケ** think の下線部の発音 [θ] はよく理解されている。

小問(4)は、「どんな種類の食べ物を食べてみたいか」という問いかけに答える際に、どの語に強勢を置くのかを問う問題である。調査校全体の正答率は50.9%であった。疑問文 What kind of ...? に対して、種類を表す **c**) Japanese に強勢を置いて答えることは、十分に理解できなかったようである。

小問(5)は、「全員で一つの鍋から食べ物を取るのか」と驚く際に、どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は28.7%と本問中最も低かった。誤答72例のうち30例が **b**) take であった。これは、後に続く文 I can't imagine that we use the same pot. に注意を払わずに判断したためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)に見られるように、[æ] や [ʌ], [ei] などの母音の発音が正確に区別できていない。また、小問(4)や(5)に見られるように、会話の内容に応じて、適切に強勢を置いて伝えることができない。

<具体的な指導例>

(1) 基本的な音声のルールや注意すべき発音を理解する。教師に続いて、発音練習をする。

(NEW HORIZON 1 の115ページ, 149ページ等を参照)

例 cup – cap – cape / mud – mad – made / cut – cat – cute / tap – tape – tune など

(2) ペアで発音を聞き分け、どの音が発音されたか確認し合う活動を行う。

【活動例】 秘密の番号をペアで聞き取ろう！

練習した単語 (cup – cap – cape / mud – mad – made / cut – cat – cute / tap – tape – tune) を正しく発音し、ペアで伝え合おう。聞き取った単語の発音を下の図の番号に置き換え、相手が伝えたかった番号を聞き取ろう！

[ʌ] → 0	[æ] → 1	[ei] → 2	[ju:] → 3
---------	---------	----------	-----------

(3) モデル文を提示し、正確な発音を身に付けたい部分を確認する。

【文例】（下線部は正確な発音を身に付けさせたい箇所）

1: Kate and Jane took a plane late last night.

2: I work for a company that makes camping equipment.

3: The test results will be posted on Monday.

4: His mother was really mad when she saw his pants covered in mud.

(4) モデル文が返答となる疑問文を複数考え、返答の際の強勢に気を付けながら会話練習を行う。

【会話例】（下線部は強勢を置いて答えさせたい箇所）

A: Who took a plane late last night?

B: Kate and Jane did [took a plane late last night].

A: When did Kate and Jane take a plane?

B: They [Kate and Jane] took a plane late last night.

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙力が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(5)の文中の()内に入る最も適当な語をア～エから選び、記号で答えなさい。また、(6)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

(1) We all have () ideas and opinions, so we should talk about them to understand each other.

ア afraid イ different ウ nervous エ same

(2) We may have a big earthquake. It's necessary for us to prepare for the ().

ア disaster イ environment ウ hospital エ war

(3) Because a lot of CO₂ is causing global warming, we should do what we can do to solve this ().

ア energy イ disease ウ plant エ problem

(4) A: What do you want to do in the future?

B: My dream is to be a carpenter or an engineer. I want to () a bridge over the river.

ア become イ break ウ build エ draw

(5) A: I love Japanese ().

B: Do you mean *kimonos*? I love them, too.

ア animals イ cars ウ castles エ clothes

(6) I had to write a report about our city, so I borrowed some books from the (1).

(7) This morning I got up late. I only had soup for (b), so I'm very hungry.

(8) A: Hello. This is Akira calling. Is Jane there?

B: Sorry, she isn't in now. Would you like to (l) a message?

(9) A: Do you have a (d)? I want to know the meaning of this word.

B: Yes, I have a printed one. Is that OK?

(10) A: You are the first speaker. Are you (r) for your speech?

B: Yes, I am. May I begin?

配点：10点（各1点）

正解 (1) イ (2) ア (3) エ (4) ウ (5) エ
(6) library (7) breakfast (8) leave (9) dictionary (10) ready

<抽出答案における【2】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 2,953		普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50
(1) different	62.7	65.1	67.7	47.7	41.3	44.0	100.0	44.0
(2) disaster		76.6	78.4	61.6	72.5	61.3	94.4	58.0
(3) problem		67.7	70.5	43.0	53.8	42.7	100.0	60.0
(4) build		82.1	84.2	65.1	77.5	58.7	94.4	70.0
(5) clothes		84.7	86.4	71.5	82.5	66.7	94.4	72.0
(6) library		55.0	58.3	31.4	33.8	33.3	94.4	22.0
(7) breakfast		63.2	66.1	44.2	47.5	33.3	88.9	40.0
(8) leave		68.3	71.5	46.5	53.8	34.7	88.9	46.0
(9) dictionary		28.4	31.2	7.6	12.5	5.3	50.0	12.0
(10) ready		36.0	38.7	13.4	25.0	13.3	77.8	14.0

調査校全体の正答率は62.7%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	30 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(1) different	65.1	30.2（29 年度）、38.5（28 年度）
(3) problem	67.7	35.4（29 年度）
(6) library	55.0	50.1（28 年度）、51.1（22 年度）
(7) breakfast	63.2	71.8（21 年度）
(8) leave	68.3	67.6（22 年度）

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) different	34	2	正答	6	26	0
(2) disaster	34	正答	17	11	6	0
(3) problem	32	19	4	9	正答	0
(4) build	14	7	1	正答	6	0
(5) clothes	11	0	0	11	正答	0

小問	誤答数	つづりの誤り（数）		その他の誤り（数）		無答
(6) library	46	18	libraly (7), librally (3), laiblary (1), librualy (1), liveraly (1) 等	18	letter (4), language (2), late (2), like (2) 等	10
(7) breakfast	38	7	breakfarst (4), breakfirst (1) 等	19	bread (6), busy (3), break (2) 等	12
(8) leave	24	0		20	late (5), listen (4), live (4) 等	4
(9) dictionary	81	7	dictionaly (1), dicsionary (1) 等	49	dream (17), doing (5), drink (4), dinner (4), drew (3) 等	25
(10) ready	62	1	redy (1)	51	read (20), remember (7), reading (6), running (3) 等	10

<考察>

小問(1)から(5)までは文中の適語補充の選択式問題、(6)から(10)までは会話文中の適語補充問題とした。

小問(1) different の調査校全体の正答率は 65.1%であった。誤答 34 例のうち 26 例が **the same** を選んでいた。これは文脈から適切に判断することができなかったためと考えられる。

小問(2) disaster の調査校全体の正答率は 76.6%とよくできていた。NEW HORIZON 3 Unit 4 で学習した表現が定着していると言える。

小問(3) problem の調査校全体の正答率は 67.7%であった。昨年度の類題と比較すると、出題形式が記述式から選択式に変わったことで、正答率が高くなったと考えられる。

小問(4) build の調査校全体の正答率は 82.1%と高かった。文中の carpenter, engineer や bridge という表現から build を導くことができたと考えられる。

小問(5) clothes の調査校全体の正答率は 84.7%と本問中最も高かった。文脈から適切に判断して clothes という語を選べたと考えられる。

小問(6) library の調査校全体の正答率は 55.0%であった。つづりの誤りのほとんどは l と r に関するものであり、l と r を区別してつづることが難しかったようである。

小問(7) breakfast の調査校全体の正答率は 63.2%であった。誤答 38 例のうち、その他の誤りが 19 例を占めており、breakfast という語を思い浮かべることができなかったようである。

小問(8) leave の調査校全体の正答率は 68.3%であった。leave a message という表現は比較的よく定着しているようである。

小問(9) dictionary の調査校全体の正答率は 28.4%と本問中最も低かった。誤答 81 例のうち、その他の誤りが 49 例、無答が 25 例あり、言葉の意味を調べるために dictionary を使うという内容を思い付かなかったようである。

小問(10) ready の調査校全体の正答率は 36.0%と低かった。誤答 62 例のうち、51 例がその他の誤りであり、NEW HORIZON 2 Unit 1 で学習した Are you ready? という表現は定着していないようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1)、(6)、(9)、(10)のように文脈の中で適切な表現を用いることができない。

<具体的な指導例>

(1) 英英辞典の定義を読ませて、どの単語の説明かを答えさせる。

- | |
|---|
| 例) (1) not like each other in one or other ways = () |
| (2) a building where books are kept for people to read or borrow = () |
| (3) a book the words and phrases of a language are listed, with their meanings
= () |
| (4) prepared for something = () |
| [Choices: dictionary, different, library, ready] |

(2) 例文を読ませて、空欄に適切な語を入れさせる。

- 例) (1) Erika, dinner is (). Can you set the table?
 (2) My opinion is quite () from yours.
 (3) You can still borrow books in a public (),
 but many new services are available now.
 (4) You should look up new words in the () before English classes.

Choices :



dictionary



different



library



ready

(3) 説明や例文をクイズ形式にして、ペアやグループで単語を答えさせる。

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、() 内に入る最も適当な語(句)をア～エから選び、記号で答えなさい。

- (1) I'm a big fan of the Beatles. Their songs () me happy.
 ア bring イ give ウ make エ take
- (2) What is () sport in your country?
 ア best popular イ most popular ウ the best popular エ the most popular
- (3) The languages () in Canada are English and French.
 ア speak イ speaking ウ spoken エ to speak
- (4) I went to bed early last night () I was tired.
 ア because イ if ウ or エ so
- (5) Alex ran () the street and came to talk to Kana.
 ア about イ across ウ between エ with

配点：10点（各2点）

正解 (1) ウ (2) エ (3) ウ (4) ア (5) イ

<抽出答案における【3】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 2,953	普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50
(1) make	90.0	91.1	84.3	86.3	80.0	77.8	80.0
(2) the most popular	79.7	81.9	64.5	67.5	58.7	83.3	70.0
(3) spoken	62.7	65.8	37.8	42.5	38.7	88.9	52.0
(4) because	86.8	87.5	83.7	86.3	77.3	88.9	74.0
(5) across	64.5	67.4	44.2	55.0	33.3	88.9	40.0

調査校全体の正答率は76.7%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	30 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(3) 過去分詞の用法（後置修飾）	62.7	33.2（28 年度）、67.5（25 年度）
現在分詞の用法（後置修飾）		79.2（29 年度）、75.2（26 年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) make	4	0	2	正答	2	0
(2) the most popular	19	2	5	12	正答	0
(3) spoken	41	1	26	正答	13	1
(4) because	7	正答	2	1	4	0
(5) across	41	9	正答	14	18	0

<考察>

小問(1)は、**make** + （代）名詞 + 形容詞 の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 90.0%と本問中最も高かった。**make me happy** という表現は、NEW HORIZON 3 Unit 1 において基本文で紹介されており、十分に定着しているようである。

小問(2)は、最上級の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 79.7%とよくできていた。最上級の用法はおおむねよく理解されているようである。

小問(3)は、後置修飾の過去分詞 **spoken** を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 62.7%と本問中最も低かった。誤答 41 例のうち 26 例が **イ speaking** を選んでおり、これは名詞を後置修飾する現在分詞と過去分詞の区別が十分にできなかったためと思われる。

小問(4)は、文脈に合う適切な接続詞 **because** を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 86.8%と非常に高かった。「疲れていたので早く寝た」という文意が理解しやすかったためと思われる。

小問(5)は、文脈に合う適切な前置詞 **across** を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 64.5%であった。**across** は NEW HORIZON 2 Let's read 1 等で紹介されているが、十分に定着していないようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3)に見られるように、後置修飾をする現在分詞と過去分詞の使い分けができない。

<具体的な指導例>

(1) 生徒同士をペアにして、**Information Gap** のあるイラストを生徒 A、B に提示する。このイラストには二人の人物が描かれており、そのうち一人については名前などの情報が示されている。

(2) 生徒 A は、情報が示されていない人物について知っているかを生徒 B に尋ねる。

A: Do you know (人) (様子)?

B: Yes, (人) (名前などの情報). ※ (様子) は分詞を用いて表現させる。

(3) 生徒 B は、自分のイラストに示されている人物に関する情報を生徒 A に伝える。

(4) 同様に、生徒 B は自分のイラストに情報が示されていない人物について知っているかを生徒 A に尋ねる。

(5) 生徒 A は、自分のイラストに示されている人物に関する情報を生徒 B に伝える。

(6) 生徒 A、B は情報をワークシートにまとめる。

【会話例 1】母親が息子を叱っているイラスト

A: Do you know a woman scolding her son?

B: Yes, she's Ms. Ito. Do you know the boy scolded by his mother?

A: Yes, he's Kota. He broke the window.

【会話例 2】外国人が女の子に話しかけているイラスト

A: Do you know a foreigner speaking to a girl?

B: Yes, he's Alex. He comes from Canada. Do you know the girl spoken to by the foreigner?

A: Yes, she's Saki.

【ワークシート例】

A person	Information
a woman scolding her son	Ms. Ito
the boy scolded by his mother	Kota broke the window.
a foreigner speaking to a girl	Alex comes from Canada.
the girl spoken to by the foreigner	Saki

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の会話が成立するように、() 内に入る最も適当な語 (句) をア～エから選び、記号で答えなさい。

(1) A: May I have some water?

B: Of course. ().

ア Guess what イ Here you are ウ I love water エ No, thank you

(2) A: Excuse me. () can I get to Minamiyama Zoo?

B: Take the train and get off at Minami Station.

ア How イ What ウ Where エ Why

(3) A: This picture looks old.

B: It () in 1880.

ア is painted イ is painting ウ was painted エ was painting

(4) A: () wash the dishes?

B: No, you don't have to. Just relax.

ア Did I イ Do you ウ Shall I エ Would you

(5) A: Everyone, please give me your homework now.

B: Sorry, Mr. Kato. I () it.

ア am not finished イ finish ウ finished エ haven't finished

配点：10 点（各 2 点） 正解 (1) イ (2) ア (3) ウ (4) ウ (5) エ

< 抽出答案における【4】小問別正答率（％） >

学科・人数 小問	全 体 2,953	普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50
(1) Here you are	74.6	82.6	83.9	70.9	85.0	61.3	76.0
(2) How		72.1	75.4	52.3	58.8	38.7	40.0
(3) was painted		81.5	82.8	70.3	73.8	73.3	78.0
(4) Shall I		63.6	67.0	41.3	43.8	26.7	44.0
(5) haven't finished		73.2	75.1	65.7	63.8	49.3	54.0

調査校全体の正答率は 74.6%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	30 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(3) 受動態の用法	81.5	80.0（27 年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) Here you are	25	5	正答	19	1	0
(2) How	24	正答	13	10	1	0
(3) painted	12	2	0	正答	10	0
(4) Shall I	46	6	25	正答	15	0
(5) haven't finished	31	28	0	3	正答	0

<考察>

小問(1)は、相手に物を手渡す時の表現 **Here you are.** に関する問題である。調査校全体の正答率は 82.6%と本問中最も高かった。この表現はよく定着している。

小問(2)は、文脈に合う適切な疑問詞 **How** を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 72.1%とよくできていた。行き方を尋ねる **How can I get to ...?** という表現はよく理解されている。

小問(3)は、受動態を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 81.5%と高かった。受動態の用法はよく理解されている。

小問(4)は、提案を表す **Shall I** に関する問題である。調査校全体の正答率は 63.6%と本問中最も低かった。これは **Shall I** を用いた表現が十分に定着していないためと考えられる。

小問(5)は、現在完了の用法（完了）を問う問題である。調査校全体の正答率は 73.2%とよくできていた。誤答は **ア am not finished** に集中しており、これは場面や状況に応じて現在完了形を適切に用いることができなかったためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)のように、助動詞を用いた表現と、それに対する応答の表現が定着していない。

<具体的な指導例>

具体的な日常の場面を設定し、ペアで助動詞を使って質疑応答の表現を考えさせる。生徒の学習の状況に応じて、あらかじめ助動詞を提示する。

【状況 1】部屋がとても暑い、窓が閉まっている。

A: It's very hot today.

B: Shall I open the window?

A: Yes, please. / No, you don't have to. Let's turn on the air conditioner.

【状況 2】飲み物を飲みたいが、ペットボトルのキャップが開かない。

A: I can't open the bottle cap.

B: Shall I open it?

A: Yes, please.

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Alice と Ben との会話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現をア～コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Alice : Wow! This donut is so delicious!

Ben : Is it? I'm glad you like it. This is my favorite.

Alice : Oh, really? (1)

Ben : It's a *Komeko* donut. It is made from rice. (2)

Alice : Yes, please! I haven't eaten anything since this morning. I'm hungry.

Ben : Drinks are free. They are in the corner over there, Alice. (3)

Alice : OK, I will. I'd like some coffee. Ah, here it is.

Ben : Alice, listen. Are you going to study abroad next summer?

Alice : Yes. (4) I've told no one about it.

Ben : Joe, your host brother in Australia, told me. He was a member of my soccer team when I was there.

Alice : Wow. It's a small world. (5)

Ben : For two years.

ア Have you ever tried it?

イ Help yourself.

ウ How did you know that?

エ How long have you known him?

オ I believe there is something I can do.

カ That's not true.

キ What is it called?

ク What's the matter?

ケ Why not?

コ Would you like some more?

配点：10 点（各 2 点） 正解 (1) キ (2) コ (3) イ (4) ウ (5) エ

<抽出答案における【5】小問別正答率（％）>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	2,953	2,558	172	80	75	18	50
(1) What is it called?	80.7	83.5	60.5	63.8	58.7	94.4	58.0
(2) Would you like some more?	80.0	81.3	66.9	82.5	72.0	94.4	64.0
(3) Help yourself.	69.1	65.6	52.9	63.8	52.0	77.8	40.0
(4) How did you know that?	33.1	35.7	11.0	11.3	17.3	55.6	22.0
(5) How long have you known him?	86.2	87.6	79.7	86.3	61.3	100.0	70.0

調査校全体の正答率は 69.1%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) What is it called?	21	1	0	4	0	0	1	正答	11	3	1	0
(2) Would you like some more?	9	5	1	0	0	1	0	0	2	0	正答	0
(3) Help yourself.	30	4	正答	8	0	3	2	0	9	1	3	0
(4) How did you know that?	72	6	3	正答	1	44	8	0	3	5	0	2
(5) How long have you known him?	7	5	0	0	正答	0	1	0	1	0	0	0

<考察>

小問(1)は、Alice が Ben にドーナツの名前を尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 80.7% と高かった。誤答 21 例のうち 11 例が ク What's the matter? であった。これは、Ben の返答 It's a *Komeko* donut. を手がかりに、会話の流れを正しく理解することができなかつたためと考えられる。

小問(2)は、Ben が Alice にドーナツのお代わりを勧める場面である。調査校全体の正答率は 80.0% と高かった。NEW HORIZON 3 Unit 1 にある Would you like some more? の表現は定着しているようである。

小問(3)は、Ben が Alice に自由に飲み物を取るよう勧める場面である。調査校全体の正答率は 65.6% であった。誤答は分散しており、会話の流れを捉えて イ Help yourself. を選ぶことができなかったようである。

小問(4)は、Alice が、自身が留学することを Ben がどのように知ったのかを問う場面である。調査校全体の正答率は 33.1% で、本問中最も低かった。これは、後に続く Alice の発言 I've told no one about it. や Ben の返答を手がかりに、なぜ Ben が知っているのかを尋ねている場面であることを理解できなかったためと考えられる。

小問(5)は、Alice が Ben に、二人の共通の知人である Joe と知り合ってどれくらいの期間になるのかを尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 86.2% で、本問中最も高かった。Ben の返答 For two years. から正しく会話の流れを捉えることができたようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)に見られるように、会話の流れに応じて適切な表現を用いることができない。

<具体的な指導例>

疑問文で相手に尋ねた後に、一言付け加えたスキットを用いて、より実際の場面に近い状況を想定して会話練習をさせる。生徒の学習の状況に応じて、選択肢を用意する。

【会話例】

A: Yesterday, I went to the shopping mall near the station.

B: Oh, really? ア What time were you there? イ I enjoyed shopping there yesterday, too.

A: ウ Around six o'clock.

アの選択肢例 Did you buy anything there? / Which shop did you go?

イの選択肢例 I bought a hat there last week. / I often go to () Store.

ウの選択肢例 I bought some clothes. / I went to () Mart.

最初の下線部の内容を指定して練習させる。次に、相手を選んだ発話に合わせて適切な応答ができるように指導する。生徒の学習の状況に応じて、スキットを自由に作らせる。

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力，基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の会話が成立するように、(1)～(3)は【 】内の語を全部用いて下線部の英文を完成させなさい。また、(4)、(5)は()内に3語以上の英語を入れて下線部の英文を完成させなさい。ただし、【 】内の語をこの順序で使いなさい。

- (1) A: Do you [from / know / is / Mike / where]?
B: He is from Brazil.
- (2) A: [drink / give / me / something / to / will / you]? It's very hot today.
B: Sure. Here's your orange juice.
- (3) A: This is Sam. Can I talk to Ben, please?
B: Sorry, he's out. I will [call / him / tell / to / you] back later.
- (4) A: I am going to stay in America. I'm so excited.
B: Sounds good. () to get there? [long, take]
A: About 12 hours.
- (5) A: Which do you like, math or English?
B: I like math. I think English (). [difficult, than]

配点：15点（各3点 部分点なし）

正答 (1) know where Mike is from (2) Will you give me something to drink
(3) tell him to call you (4) How long does it take
(5) is more difficult than math

＜抽出答案における【6】小問別正答率（％）＞

学科・人数 小間	全 体 2,953		普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50
(1)	48.6	45.4	48.7	23.3	18.8	18.7	77.8	22.0
(2)		63.4	67.1	36.6	42.5	32.0	94.4	34.0
(3)		52.7	56.5	25.6	30.0	24.0	88.9	20.0
(4)		28.0	30.5	10.5	15.0	5.3	61.1	8.0
(5)		53.4	57.1	26.2	32.5	22.7	88.9	22.0

小問(1)から(3)までは、会話を完成させる整序問題、小問(4)、(5)は、会話が成立するように指定された語を用いて表現させる形式とした。なお、いずれの小問にも日本語は示さないこととした。調査校全体の正答率は 48.6%であった。

＜過年度類題正答率（％）＞

小問	30年度 正答率	過年度正答率（出題年度）
(1) 間接疑問	45. 4	31. 5（29年度） Do you know why he says so? 63. 2（28年度） Do you know who she is? 37. 5（27年度） Do you know where my notebook is? 64. 5（25年度） I don't know why he said so. 53. 0（23年度） Do you know where she will go tomorrow?
(2) 不定詞の形容詞的用法	63. 4	56. 9（29年度） Would you like something to drink? 70. 7（26年度） I have many friends to help me.
(3) tell ＋人 ＋ to do	52. 7	55. 8（28年度） I want him to call me back.
(5) 比較級	53. 4	4. 3（29年度） I think Ichiro is a better player than Otani.

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	67
(2)	44
(3)	56
(4)	80
(5)	47

<考察>

小問(1)は間接疑問を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 45.4%と低かった。

誤答例 ①	Do you know where is Mike from?	39 例
②	Do you know where is from Mike?	11 例

誤答 67 例のうち 50 例が Do you know と書き出してはいるが、間接疑問の用法が理解されていないようである。

小問(2)は、to 不定詞の形容詞的用法を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 63.4%と本問中最も高かった。

誤答例 ①	Will you something drink give to me?	4 例
②	Will you give something drink to me?	4 例
③	Will you give me to something drink?	4 例

Will you ...? というフレーズは定着しているが、give + (人) + (もの) と、不定詞の形容詞的用法について正しく理解されていないようである。

小問(3)は、tell + 人 + to 不定詞 の形を用いて表現できるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 52.7%であった。

誤答例 ①	I will tell you to call him back later.	9 例
②	I will tell him to you call back later.	9 例

誤答 56 例のうち 37 例は、I will tell と表現していることから、主語と動詞の関係は理解されているが、tell + 人 + to 不定詞 の表現はあまり定着していないようである。

小問(4)は、How long does it take を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 28.0%と今回の調査全体で最も低かった。

誤答例 ①	How long have you take to get there?	14 例
②	How long do you take to get there?	7 例

誤答 80 例の全てで How long の表現を用いることができていた。一方で、誤答例 ① と ② を含む 23 例では主語 it を用いることができていなかった。「(時間)がかかる」という意味の take を用いた表現が定着していないようである。

小問(5)は、二つの教科について比較する表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 53.4%であった。

誤答例 ①	I think English is difficult than math.	13 例
②	I think English more difficult than	8 例

誤答 47 例のうち、誤答例 ① を含む 19 例では more difficult という比較級を用いた表現ができていなかった。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)のように、it takes + 時間(名詞)を用いた表現が定着していない。

<具体的な指導例>

- (1) it takes + 時間(名詞)を用いた表現について簡潔に説明する。
- (2) it takes + 時間(名詞)の表現を用いて、英文を作らせる。生徒の学習の状況に応じて、語群から to 不定詞 で始まる表現(目標等)を選ばせ、それを用いて作文させる。
- (3) ワークシートを使ってペアで会話をさせる。聞きたい内容に応じて、疑問詞に注意を払わせながら、会話を続けさせる。

【ワークシート例】

1. 目標: to come to school

It takes () to come to school.

2. 目標: to (ア) ← 語群から選ばせる

It takes (イ) to (ア).

【会話例】

1. A: How long does it take to come to school?

B: It takes 40 minutes to come to school.

2. A: What does it take to (ア)? ← 語群から選び、質問させる

B: It takes (イ) to (ア).

(7) 長文読解問題

出題のねらい: 比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】 次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Mr. Smith was a busy writer. He had to write his book but he didn't know what to write, so he decided to travel alone to look for new ideas.

When he took the train, (1) he put his bag on the seat beside him. He didn't want anyone to sit beside him. He wanted to think about his book alone. Other people on the train sat on all the other seats, but nobody sat on the seat which his bag was on. The train was very crowded, but he wanted to enjoy traveling alone.

Mr. Smith saw a little boy standing with a little girl near his seat. The little boy held the little girl in his arms. He looked at Mr. Smith's bag and said, "(2) Is this someone's seat? My sister is sleepy and she needs to sit down." "Yes, this is my friend's seat," answered Mr. Smith. "He is traveling with me, and he has gone to buy something. He will come back soon." The boy said, "All right," but (3) he seemed sad.

"Why don't you sit here?" said a young man in a blue jacket. He was sitting in front of Mr. Smith. (4) He gave his seat to the little girl and walked away from them. The boy and the girl looked happy.

An old man with glasses then came to Mr. Smith. He asked Mr. Smith the same question as the little boy. (5) Mr. Smith replied in the same way, but the old man said, "All right. I'll sit here until your friend comes back, and then I'll stand up." He put the bag above him and sat down.

(6) Mr. Smith did not feel happy about this, but he wasn't able to do or say anything, because all the other people were watching and listening.

When the train began to move, the old man jumped up and said, "I'm very sorry, but your friend is late for the train. He will have a big problem if he doesn't have his bag with him. I don't believe he will like (7) that." Before Mr. Smith was able to do or say anything to stop him, the old man took the bag down and threw it out of the window.

(8) The old man knew everything. There was no friend.

問1 下線部(1)の理由として、最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア He had something important in his bag.
- イ He took the seat for his little boy and little girl.
- ウ He wanted to get a seat for his friend.
- エ He wanted to think of new ideas for his book alone.

問2 下線部(2)に関して、少年がそのように聞いた理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア The boy knew Mr. Smith's friend would not come back soon.
- イ The boy needed a seat for his sister.
- ウ The boy thought it was a seat for an old man with glasses.
- エ The boy wanted to sit because he was very sleepy.

問3 下線部(3)と(4)が具体的に誰を指すか、組合せとして正しいものを下から選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ア (3) Mr. Smith | (4) a young man |
| イ (3) Mr. Smith | (4) Mr. Smith's friend |
| ウ (3) the little boy | (4) a young man |
| エ (3) the little boy | (4) Mr. Smith's friend |

問4 下線部(5)に関して、次の質問に対する答えとして最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

What did Mr. Smith say?

- ア "This is a young man's seat."
- イ "This is my friend's seat."
- ウ "This is my seat."
- エ "This is the boy's seat."

問5 下線部(6)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Mr. Smith wanted his friend to come back soon.
- イ The boy and the girl were sleeping beside Mr. Smith.
- ウ The man in a blue jacket advised Mr. Smith to give up the seat.
- エ The old man put the bag above him and sat on the seat.

問6 下線部(7)の内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Mr. Smith's friend will leave his bag on the train.
- イ The old man will sit on Mr. Smith's friend's seat.
- ウ The other people will watch Mr. Smith's friend.
- エ There is no space for him.

問7 下線部(8)の内容として、以下の文の()内に入る最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

The old man knew ().

- ア Mr. Smith's friend was almost at the station
- イ Mr. Smith's friend was coming soon
- ウ Mr. Smith was not traveling with his friend
- エ Mr. Smith was waiting for his friend

問8 本文の内容に合うように次の英文を起こった順に並べかえた時、最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- 1 Mr. Smith put his bag beside him.
 2 The little boy asked Mr. Smith a question.
 3 The old man threw the bag out.
 4 The young man gave his seat to the girl.
 ア 1 → 2 → 3 → 4
 イ 1 → 2 → 4 → 3
 ウ 2 → 1 → 3 → 4
 エ 2 → 1 → 4 → 3

問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア Mr. Smith was very busy, so he didn't have time to travel alone.
 イ Mr. Smith wanted to read a book on the train.
 ウ Mr. Smith was sitting in front of the young man in a blue jacket.
 エ The young man gave his seat to the little girl because she looked sick.
 オ The young man asked Mr. Smith to give the seat.
 カ The old man jumped out of the train when it began to move.
 キ Mr. Smith's bag was thrown out of the window.

配点：20点（各2点）

正解 問1 エ 問2 イ 問3 ウ 問4 イ 問5 エ
 問6 ア 問7 ウ 問8 イ 問9 ウ, キ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問		全 体 2,953	普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50	
問 1		59.6	64.7	66.3	52.3	60.0	42.7	88.9	54.0
問 2			73.8	76.7	50.0	66.3	45.3	94.4	54.0
問 3			66.9	69.5	51.2	47.5	40.0	94.4	52.0
問 4			67.7	70.8	45.9	42.5	48.0	88.9	48.0
問 5			60.7	63.3	44.2	40.0	42.7	83.3	34.0
問 6			43.9	45.9	27.9	35.0	30.7	44.4	32.0
問 7			58.0	61.0	32.0	40.0	40.0	83.3	40.0
問 8			67.8	70.3	48.3	55.0	49.3	88.9	48.0
問 9	ウ		49.7	51.4	39.0	38.8	34.7	66.7	36.0
	キ	42.4	45.3	18.0	25.0	21.3	77.8	22.0	

調査校全体の正答率は59.6%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問1	37	8	10	18	正答				1
問2	30	7	正答	8	11				4
問3	33	14	5	正答	13				1
問4	30	6	正答	11	11				2
問5	51	13	13	19	正答				6
問6	57	正答	17	17	14				9
問7	50	5	14	正答	23				8
問8	31	4	正答	6	12				9
問9	112	10	11	正答	7	30	30	正答	24

<考察>

問1は、Mr. Smith が自分の隣の座席にかばんを置いた理由を問う問題である。調査校全体の正答率は64.7%であった。誤答37例のうち **イ** He took the seat for his little boy and little girl. が10例、**ウ** He wanted to get a seat for his friend. が18例あり、直後の He didn't want anyone to sit beside him. He wanted to think about his book alone. を正しく理解できなかったようである。

問2は、少年が Mr. Smith に、かばんが置かれた座席が空いているかどうかを聞いた理由を問う問題である。調査校全体の正答率は73.8%と本問中最も高かった。直後の My sister is sleepy and she needs to sit down. から容易に理解できたようである。

問3は、代名詞 he が指す人物を問う問題である。調査校全体の正答率は66.9%であった。登場人物の間での座席に関するやり取りが理解できなかったようである。

問4は、Mr. Smith が隣の座席について the old man に答えた内容を問う問題である。調査校全体の正答率は67.7%であった。Mr. Smith の少年への発言 “Yes, this is my friend's seat,” と結び付けることができなかったと考えられる。

問5は、Mr. Smith が嫌な気分になった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は60.7%であった。誤答は分散しており、直前の He put the bag above him and sat down. という the old man の行動と Mr. Smith の気分を結び付けることができなかったようである。

問6は、代名詞 that が指す内容を問う問題である。調査校全体の正答率は43.9%と低かった。直前の He will have a big problem if he doesn't have his bag with him. から the old man が好ましくないと思っている事柄を読み取ることができなかったようである。

問7は、the old man が知っていた内容を問う問題である。調査校全体の正答率は58.0%であった。誤答50例のうち、**エ** Mr. Smith was waiting for his friend. が23例あり、「Mr. Smith が嘘をついていることを the old man が見抜いている」という物語の核心部分を捉えることができなかったようである。

問8は、本文中に書かれている出来事の起こった順序を問う問題である。調査校全体の正答率は、67.8%と本問中で2番目に高かった。物語の展開を時系列に沿って捉えることができたようである。

問9は、本文の内容に一致するものを二つ選択する問題である。調査校全体の正答率は、**ウ** が49.7%、**キ** が42.4%と低かった。誤答112例のうち、**オ** The young man asked Mr. Smith to give the seat. が30例、**カ** The old man jumped out of the train when it began to move. が30例あり、登場人物の動きや相互の関わりを読み取ることができなかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

問9に見られるように、登場人物の動きや相互の関わりを読み取ることができないため、物語の流れを理解することができない。また、問5、問7に見られるように、登場人物の行動とその背後にある気持ちや考えを結び付けることができない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後で、配役を決め、指示に従った動きをさせる。実際に演じてみることで、登場人物同士の関わりを理解させる。また、登場人物に質問することで、湧き起こる気持ちに気付かせる。

【登場人物】

Mr. Smith / a young man in a blue jacket / a boy / an old man with glasses

【指示例 / 質問例】

1. Mr. Smith, get on the train and put your bag on the seat beside you.
- Mr. Smith, why did you do that?
2. Young man in a blue jacket, sit in front of Mr. Smith.
3. Boy, hold the little girl in your arms and get on the train.
4. Boy, ask Mr. Smith if it is someone's seat.
5. Mr. Smith, tell the boy that it is your friend's seat.
- Boy, how do you feel?
6. Young man, give your seat to the little girl.
7. Old man with glasses, get on the train and ask the same question as the boy.
8. Mr. Smith, answer the question in the same way.
- Mr. Smith, why did you say so?
9. Old man, put the bag above Mr. Smith and sit down.
- Mr. Smith, how do you feel?
10. The train begins to move. Old man, jump up.
11. Old man, take the bag down and throw it out of the window.
- Old man, why did you do that?
- Mr. Smith, how do you feel?

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

第1問は、1番から3番までの三つあります。それぞれについて、最初に会話文が読まれ、続いて、会話についての問いと、問いに対する答え、(a)、(b)、(c)、(d)が読まれます。そのあと、もう一度、その会話文、問い、問いに対する答えが読まれます。正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えは、それぞれ一つしかありません。それでは、始めます。

1

A: Hey, you're late. What happened?

B: I woke up late this morning.

A: When did you wake up?

Question : What will the man say next?

(a) I usually wake up at 8:00.

(b) I woke up in my room.

(c) I woke up at 8:00.

(d) No, I can't wake up.

2

A: I really want to visit a foreign country.

B: Me, too. I would like to go to Italy someday.

A: Have you ever been abroad?

Question : What will the man say next?

(a) Yes, I am.

(b) No, I don't.

(c) No problem.

(d) Yes, just once.

3

A: Do you have any plans for this weekend?

B: No, I don't.

A: Why don't we play tennis?

Question : What will the man say next?

(a) I'd love to.

(b) No, because I like tennis.

(c) Yes, I have a lot of homework.

(d) Sorry, I have other plans.

第2問は、最初に Kevin と Erica との会話文が読まれます。続いて、会話についての問いと、問いに対する答え、(a)、(b)、(c)、(d)が読まれます。問いは二つあります。そのあと、もう一度、会話文、問い、問いに対する答えが読まれます。正しいものには ○、そうでないものには × をつけなさい。正しい答えは、それぞれ一つしかありません。それでは、始めます。

Kevin: Look, Erica. What are they doing over there?

Erica: Kevin, they are waiting. That store starts selling a new video game today.

Kevin: Well, so many people are waiting. What time does the store open?

Erica: Usually at 10. But today it will be open at 9:30. So, in 15 minutes.

Kevin: I see. Well, actually I want to buy it, too. It looks good.

Erica: Are you sure? If you wait for it, we will have to stand there for a long time.

Kevin: But the movie we are going to watch will start at 12:00, right?

Erica: No, at 11:00, and it takes about one hour to get to the theater.

Kevin: All right, I'll buy it next week.

Question 1 : What time is it now?

(a) 9:15 (b) 9:30 (c) 9:45 (d) 10:00

Question 2 : What is Kevin going to do next?

(a) He is going to get a new video game. (b) He is going to go home.
(c) He is going to go to the theater. (d) He is going to stand at the store.

配点 15点 (各3点)

正答 第1問 1 a (×) b (×) c (○) d (×) 2 a (×) b (×) c (×) d (○)
3 a (○) b (×) c (×) d (×)
第2問 1 a (○) b (×) c (×) d (×) 2 a (×) b (×) c (○) d (×)

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 2,953		普 通 科 2,558	総合学科 172	商業科系 80	家庭科系 75	英語科系 18	他の学科 50
第 1 問 Question 1	62.9	79.8	82.2	64.0	62.5	58.7	94.4	68.0
Question 2		78.8	80.3	71.5	73.8	58.7	83.3	64.0
Question 3		59.5	62.5	40.1	42.5	26.7	83.3	42.0
第 2 問 Question 4		54.0	56.6	32.0	32.5	40.0	77.8	46.0
Question 5		42.4	44.3	26.2	32.5	26.7	77.8	28.0

昨年度までは、150～180語程度の会話の内容に関する Questions (5問)を出題していたが、本年度は、20語程度の短い会話文を聞き、それに対する Question (1問)に答える形式の3題と、100語程度のまとまった会話文を聞き、それに対する Questions (2問)に答える形式の1題を出題した。

第1問は、二人の会話が次にどのように続くかを推測させるものである。第2問は、Kevin と Erica が映画に出かける途中での会話である。第1問、第2問ともに、問題を、「会話文→質問→解答選択肢」の順で2度繰り返して提示した。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は62.9%であった。

<分析答案による誤答数>

小問		誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
第 1 問	Question 1	16	12	1	正答	3	0
	Question 2	20	9	7	4	正答	0
	Question 3	33	正答	12	4	17	0
第 2 問	Question 1	43	正答	18	15	10	0
	Question 2	71	25	18	正答	28	0

<考察>

第1問 Question 1 は、男性が「何時に起きたか」という質問にどう答えるかを問うものである。調査校全体の正答率は79.8%と本問中最も高かった。今朝起きた時刻を答える場面であることは容易に判断できたようである。

Question 2 は、男性が「これまでに海外へ行ったことがあるか」という質問にどう答えるかを問うものである。調査校全体の正答率は78.8%と高かった。会話の流れに応じて、回数を表す表現を適切に選択することができたようである。

Question 3 は、男性が「テニスの誘い」にどう答えるかを問うものである。調査校全体の正答率は59.5%であった。Why don't we ...? が勧誘の表現であると気付くことができず、(b) No, because I like tennis. や (d) Sorry, I have other plans. を選んでしまったと考えられる。

第2問 Question 1 は、「二人の会話が行われている時間」を問うものである。調査校全体の正答率は54.0%であった。Erica の発言にある But today it will open at 9:30. So, in 15 minutes. を正確に聞き取ることができず、正答である9時15分を導き出せなかったようである。

Question 2 は、「Kevinが次に何をするか」を問うものである。調査校全体の正答率は42.4%と本問中最も低かった。これは、彼らが映画館に向かっている最中であるという状況を理解した上で、Kevinの最後の発話にある I'll buy it next week. を正確に聞き取る必要があったためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

聞き取った情報から、会話の状況を整理できない。

<具体的な指導例>

1. 聞き取りの前に質問を与え、聞き取るべき点に注意を向けさせる。

口頭で一つ質問を与えた後に、会話を聞かせる。これを数回繰り返す。

※ 質問と選択肢の例

(1) (Question: Where are they going?)

a) They are going to a game store.

b) They are going home.

c) They are going to the movie theater.

d) They are going to the station.

(2) (Question: What time will the movie start?)

a) 9:30

b) 10:00

c) 11:00

d) 12:00

2. 次に、内容に関する要約（空所補充）をさせる。または口頭で要約させる。

<例>

On the way to the (1. theater), Erica and Kevin see many people (2. waiting) in a line for a store which sells video games to open. Kevin is interested in the video game. It is (3. 9:15), and they don't have enough time because the movie will start at (4. 11:00). Kevin will buy the game (5. next week).